

令和4年度 努力点 グランドデザイン

I 到達目標（ビジョン）

目指す子ども像：主体的に学ぶ子ども

主体的に学ぶ子どもとは、

自分の課題を見付け、解決していく子ども

のことである。

令和3年、「教育課程部会における審議のまとめ」（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）では、今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められるとされている。このことから、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが求められていることが分かる。

そこで、筒井小学校においては、ICTを活用した、個別最適な学びがどのようなものかについて、追究していく。協働的な学びについては、個別最適な学びの成果を学び合うことや、すでに行っている協働学習にICTを取り入れることなどによって触れていきたい。

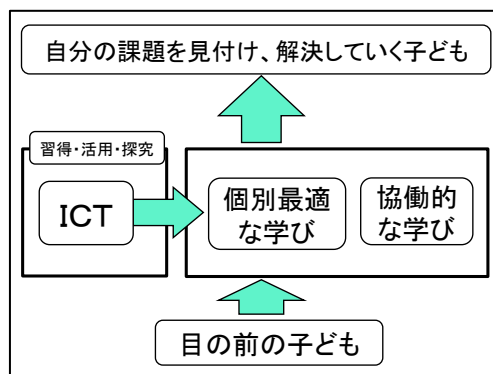
令和3年『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会）

では、「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されている。それぞれについては、以下のように示されている。

「指導の個別化」：支援が必要な子どもにより重点的な指導を行ったり、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行ったりすることで、全ての子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることができるようにすること。

「学習の個性化」：一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整することができるようにすること。

これらのことから、自分の課題を設定する時間を設けたり、ICTを活用し、学習進度を把握させたりしながら、学習を進めていきたい。また、「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならないように、「協働的な学び」を取り入れた単元計画を考えていきたい。



2 目指す子どもに必要な力

- ・自分の課題を設定する力（本時の目標とは別に自分の課題を設定していくことになる）
 - ・課題を解決していく力（自分の課題に対して振り返りを行うことになる）
- 二つの力を学年の実態に合わせて、身に付けていきたい。

3 テーマ

主体的に学ぶ姿を引き出す授業づくり ～ICTを活用した個別最適な学びを目指して～

4 研究計画

子どもが自ら学び、最適解を獲得できるようにする、伴走者となる教師の在り方を考えていただくこととなります。

初年度である本年度は、1学期に現職教育を行い、「個別最適な学び」について知識を深めたり、実践に触れたりします。2学期に各学年で1単元選択して、計画を立て、実践を行っていただきます。今後必要になっていく個別最適な学びについて理解を深め、具体的な教科指導で試行的に実践することが本年度の目標です。

2年目以降は、継続して現職教育を行うとともに、初年度の課題を検討し、最終的には計画的に個別最適な学びを取り入れた実践ができることを目指します。

5 本年度の取り組みの仕方について

(1) 手立てについて

単元終末時における子どもの姿をイメージした単元計画を立てる。

学習進度（キュビナ等で把握）、学習到達度に応じた発問、教師支援計画を立てる。

（例）単元の導入は全体指導、習得時は個別学習、終末に協働的な学び

（例）1時間の前半に全体指導、後半に個別学習 の繰り返し が考えられる。

(2) 評価について

子どもの課題を設定する様子や、達成できたかを振り返る様子などから評価する。

目標を設定し、単元末テストで学習内容の定着が確認できたかで評価する。

(3) 努力点の進め方について

① 教科や手立てについて

様々な教科、単元で行う。

② 授業実践について

2学期に学年で1単元を選択して、実践を行う。（授業公開は、単元内で一人1実践）

③ 事前・事後検討会について

各部会で時間を設けて行うようにする。部会を問わず参加してもよい。

④ 代表授業について

10月に1回行う。指導案の検討から学校全体で意見を出し合い、協力して準備をする。

⑤ 指導案について

授業公開の1週間前までに、教務と推進委員長に時限と活動内容を知らせ、前日までに単

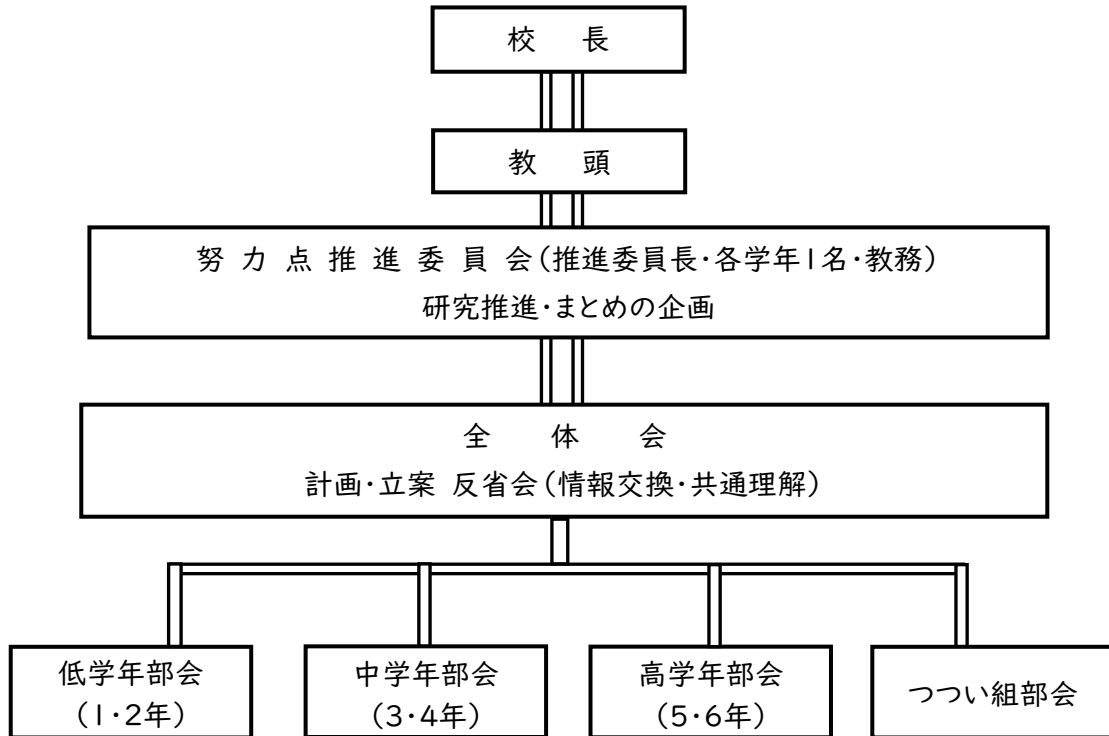
元計画と略案を全職員に配付する。

⑥ 最終報告について

本年度、個別最適な学びを取り入れた実践を学年で報告する。

抽出児童の変容、特に低位と高位の児童の様子をまとめていただく予定です。

6 研究組織



(3) 年間の研究計画

月	部 会	内 容 ※ () 内は予定
4	・ 推進委員会 ・ 全体会	・ 研究推進計画検討 (4/7) ・ 研究のねらいと実施計画についての共通理解 (4/14)
5 6 7		・ 現職教育 (個別最適な学びについて) ・ 現職教育 (個別最適な学びの実践例について)
9 10 11 12		・ 実践の実施 ・ 全体授業の事前検討会 (10月上旬) ・ 全体授業・事後検討会 (10月下旬)
1 2 3	・ 全体会 ・ 推進委員会	・ 実践のまとめ方の提案、作成 ・ 最終報告会 (3/2) ・ 来年度の計画 (3/9)

※ 上記以外にも、必要に応じて推進委員会や学年部会を開く。